

第2学年国語科学習指導案

単元名 説得力のある意見文を書こう

教材名 「考えるイルカ」(東京書籍 中学校2年)

「意見文を書こう」(東京書籍 中学校2年)

1 単元について

佐賀県の生徒の実態として、平成21年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、「読むこと」、「書くこと」、「言語事項」の2領域1事項に課題が見られた。特に「読むこと」では、「展開を押さえ正確に理解し、ものの見方をとらえる」こと、「書くこと」では、「資料から必要な情報を取り出し、伝えたいことを明確にして書く」ことに課題があるため、年間指導計画の立案や単元構想に当たっては、この課題の克服を常に頭において考える。これまでの学習において、生徒は1年生の時に「ハチドリの不思議」で文章の構成や因果関係に注意して読み取ることを学んでおり、説明的な文章の構成や指示語や接続語の働きについて学習している。また、「根拠を示して書こう」では、明確な根拠を挙げて意見文を書くことを学んでいる。しかし、自分の意見を明確にし、それを相手に分かりやすく適切にまとめるという活動に苦手意識をもつ生徒が少なくない。これは身に付けた知識や技能を条件や目的に応じて使うことや文章の構成や論理の展開を考えて文章を書く経験が不足しているからだと考えられる。そこで本単元では、これまでに身に付けた力を使って説明的な文章の読み取りを行い、その構成や論理の展開を参考にして、自分の意見を明確にし、意見文としてまとめる道筋を知るといった段階を踏んだスモールステップによる学習を行う。そして、この一連の学習を通して身に付けた知識・技能を使って、構成を工夫し、自分の意見文を書くという学習活動を行いたい。

本単元では、まず最初に、説明的な文章を素材とし、原因や根拠に注目して文章の論理の展開を読み取る学習を行う。そして、その読み取った筆者の論理の展開の仕方について吟味し、自分の表現の工夫につなげる言語活動を位置付けたい。本教材「考えるイルカ」は、イルカの思考方法を調べるためにいくつかの訓練及び実験を行い、その結果について筆者の考察や判断を述べた文章である。「『賢い』とはどういうことだろう。」という問いと、それに対する「筆者の考え(結論)」が「イルカの思考の調査実験」の話題を通して展開される構成になっている。また表現の特徴として、筆者が研究者としての立場に立ち、慎重に考察していることを文末表現から読み取ることができる。さらに、本教材における筆者の考察は、実験結果を根拠として述べている部分だけでなく、推論で述べられている部分も多い。筆者はその推論に説得力をもたせるために、類似の例を利用している。これらの工夫を読み取らせることによって論理の展開の仕方を吟味させ、読み解き方を学ばせたい。そして「意見文を書こう」で示される、相手の意見に対する反論を含んだ意見文の書き方も参考にして自分の意見文を書く。「考えるイルカ」で身に付けた力を活用して集めた情報の内容を検証して自分の意見に生かす力を身に付けさせたい。

本単元では、多様な考え方ができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書く活動(第2学年「B書くこと」(2)イ)を言語活動として設定する。筆者の文章の構成の仕方や筆者の意見の根拠を検討するという点で「読む」教材の読みを深め、論理的思考力の育成にもつながると考える。また、自分の考えを相手に明確に伝わるように書く力を身に付けるため、説明的な文章の効果的な構成の仕方や論理の展開について知る。情報の整理の仕方を知る。情報や根拠の吟味の仕方を知るといった段階を踏んだスモールステップによる学習活動を行う。そして、その学習活動の中で身に付けた知識や技能を使って自分の意見文を書くという言語活動を取り入れる。

2 単元の指導目標

- (1) 社会生活の中から課題を設定させ、情報を収集、整理、検証して自分の考えをもたせる。
- (2) 目的や条件に応じて構成や表現を工夫させ、伝えたいことが明確に伝わるように意見文を書くことができるようにする。

3 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	1 自分で選んだ課題に応じて情報を集め，比較，検討しながら自分の考えをまとめようとしている。 【B 書くこと(1)ア】
イ 書く能力	1 根拠を明らかにして分かりやすい構成で意見文を書いている。 【B 書くこと(1)イ】 2 分かりやすい説明や具体例を加えて，事実や意見が相手に効果的に伝わるように書いている。 【B 書くこと(1)ウ】 3 自分の書いた文章を読み返し，語句や文の使い方，段落相互の関係などに注意して説得力のある文章になるようにしている。 【B 書くこと(1)エ】
ウ 読む能力	1 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て，自分の考えをまとめている。 【B 読むこと(1)オ】
エ 言語についての知識・理解・技能	1 相手や目的に応じて文章の形態や文章表現に違いがあることを理解している。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)】

4 指導と評価の計画(全8時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価の方法	
一	1	1 課題に対して自分の意見を持ち，まとめることへの意識をもつ。	自分なりの課題をもたせるために，課題に対する意識付けができるような資料を提示する。	エ 1 【話合いの観察，ワークシートの記述】	
		2 意見文例を読み比べて説得力のある意見文の書き方のポイントを知る。	構成や論理の展開の工夫などに気付かせ，ポイントとしてまとめさせる。		
	2	3 これまでの説明的な文章の学習を振り返る。	基本的な構成の仕方や，特徴について想起させる。		イ 1 【話合いの観察，ワークシートの記述】
		4 学習目標を設定し，学習計画を立てる。	学習の流れを生徒が把握できるように配慮する。		
二	3	5 「考えるイルカ」の全文を通読し，初発の感想をもつ。	筆者の説明の仕方の特徴に着目させる。	イ 1 【ワークシートの記述】	
		6 文章の構成を理解する。	意見文を書くためのモデルとなるように，ワークシートにまとめさせる。		
	4	7 筆者の意見を読み取り，筆者の説明の仕方について評価する。	自分の意見文を書く際の参考になるように筆者の説明の仕方でのよい点をまとめさせる。		イ 2 【ワークシートの記述，発言】
		5	8 自分が書く意見文の課題を設定する。		

	9 設定した課題について情報を集める。	参考資料や参考図書を明確にするよう指導する。	ウ 1 【選んだ資料】
	10 集めた情報を基に，自分の意見を明らかにする。	読み手に伝えたいことを明確にして情報を選択するよう指示する。	
6	11 構成を工夫して意見文を書く。	「考えるイルカ」の構成を利用して考えさせる。	イ 1 【ワークシートの記述】
三	7 12 グループで意見文を読み合い，評価し合う。	評価の観点に従って相互評価をさせる。	イ 3 【話合いの観察】
8	13 自分の意見文に加筆修正をする。	友達の意見や書き方のよい点を利用して書くようにさせる。	イ 3 【作品の分析，作業の観察】
	14 学習のまとめをする。	何を学んだかを確認させる。	